

文芸特集

たくさんの力作の中から選ばれた秀作の一部を紹介します。限られた字数の中には織り込まれた、さまざまなおいや季節の情緒を味わってみてください。

短歌

金子富美子 選

一席 フオールアウト漂ひをらむ春の空かかる荒廃平和利用とふ

川口1 川久保良治

評 人間が制御して安全のはずだった原発。が三・一では放射能汚染が拡大、日々に放射線の危険性が報じられる事態となつた。人々は避難し、人の住めない地域も現出されたのである。

雨の中辿りつきたる無言館傘のしづくを払う入口

坂下町3 神谷安久子

二・二六事件を語る人もなく長靴に踏む雪の深さを

幸町1 板橋 豊子

豹柄の添寝の毛布抜け出して吾が幼子は少女となりぬ

芝新町 荒木 信子

あの人と何度も歩いたこの道を違う歩幅で歩いています

小谷場 小野崎路子

子のメールは転勤先を告げて いる迷う事なく自信あり気に

青木1 安藤よし子

合併で残りしものの一つにてキジバト描くマンホールの蓋

桜町6 藤波不二雄

公園の小さな池の噴水の虹を潜りて銀やんまる來る

安行領根岸 菅野 孝仁

幼子が「あれはなに」と指を差す青空高く浮かぶ綿雲

安行慈林 村上 芳子

吾が編みしマフラー巻きてポーズする父の頑固はほぐれてゆきぬ

末広3 後藤 和子

吾子たちが祖父母の家に駆け行きし鬼子母神の坂傾り変わらず

上青木3 岩崎モト子

はつ夏の緑の棚田を吹きおろす風光りつつ海に落ちゆく

芝下3 小泉登代子

口癖は雪が解けたら帰ろうと病む夫今日もふる里のゆめ

榛松 小山 鈴子

川柳

新井 愁思 選

一席 原発のなき箱庭の山河かな

小谷場 宗像とき子

評

箱庭は夏の季語である。箱庭の山水や苔は、涼感を呼ぶものとして江戸時代より高い人気があった。その箱庭には、恐ろしい原発などはなく美しい山河が配されている。人間の命の大切さを訴えていることが読み取れる。

振り返り陽炎の中遠ざかる

西川口2 秋山 幸子

水面には着くや着かずや春の雪

鳩ヶ谷本町2 市川 和夫

列島の祈りと誓ひ雪き踏む

本蓮1 太田垣登志乃

夫婦岩の鳥居に飛沫春疾風

上青木西2 大滝 德美

ベランダに心ばかりの吹き流し

西川口2 大畠 光弘

恋せよと咳き返すシクラメン

新堀 坂本 越子

節電の一策に置く花氷

南鳩ヶ谷2 高橋 節子

キリンの首よそこから春が見えるかい

芝1 篠原 弘子

ハミングが聞こえあわてて山笑ふ

本町4 田邊 元子

芝川の水燐めきて残る鴨

南町1 知念 哲庵

山里の生活を集め雪解川

本町1 中山 明子

おくれ髪梳きたる小指息白し

南鳩ヶ谷5 中山 明子

芽出し雨犬の濡れ毛の光りをり

鳩ヶ谷緑町1 村岡トシ子

旅口マン余命が急かす世界地図

川口4 富田千恵子

古希を経て身の財と識る趣味の会

安行領家 原沢かね子

二人連れ隅に追いやる都市砂漠

鳩ヶ谷本町3 加藤 レイ

合併で新たな出逢い待ち焦がれ

坂下町3 永井 久江

欠点は衝かず見ぬ振り共白髪

上青木西4 星野 良一

ウオーキング少し伸ばして御成道

安行領根岸 堀口 弘一

じわじわと痛みが迫る長寿国

東川口2 星野 直康

勝れびと花も盛りの高齢期

並木元町1

東川口2 星野 直康

詰石 麗子

※文芸特集は年1度の掲載を予定しています。次回の募集は広報かわぐちでお知らせします。

問い合わせ…広報課 ☎048-259-7628 FAX048-258-5661